

## [ 第 3 回富良野市障がい者計画策定市民委員会 議事録 ]

### ○西尾福祉課長の進行で開会

### ○鎌田保健福祉部長あいさつ

・本市で予定している今年 21 日の総合防災訓練と JR 根室本線、富良野線の積極的な利用についての協力をお願いしたい。障がい者の政策は、平成 26 年に障害者権利条約を批准、昨年は障害者差別解消法が施行し、国は次期第 4 次障害者基本計画の策定のため、今年 2 月から厚生労働省において障害者政策委員会を設置し審議を進めている。その中では障がいの障壁の除去に向けたアクセシビリティの向上と性別・年齢による複合的な困難への配慮など、幅広い課題の論議が行われている。本市の計画においても、これらの審議内容等を加味し、また、本日提示する資料の確認を頂き次期計画の審議をお願いしたい。

### ○小玉委員長あいさつ

・実務者会議の検証結果から次期計画に向けた課題及び障がい者種別のアンケート調査結果の資料としてお配りしている。その内容と結果について、皆さんから忌憚のないご意見を頂き、審議を願いたい。

### ○議事進行 小玉委員長が議長となり議事進行

### ○議事

#### 協議事項

- (1) 実務者会議等における検証結果について説明 (西尾課長)

#### 提案 1

・相談窓口の充実と情報の周知徹底が一番大事だと感じている。新規の手帳取得者だけでなく、過去に手帳を取得した人に全員にハンドブックの配布をして、色々な情報の共有を図れないだろうか。家から出る事ができない、あるいは窓口に来る事ができない方、情報を必要としている障がい者に対する配布も検討して欲しい。 → 障がい者の情報の周知については、ハンドブックの配布等も含め検討を行う。

#### 提案 2

・アンケートの自由意見の中ですぐに回答できる意見があれば、市ですぐに対応してほしい。

#### 提案 3

・何十年も前に手帳を取得したため、障がい者にハンドブックがある事を知らない。周知を徹底して欲しい。 → 富良野市では「心身障がい者の手引き」を希望される方に適宜配布している。広報への掲載、または、HP の利用等で検討を行う。

#### 提案 4

・手帳の再交付の時にも手引きを配布してほしい。

#### 提案 5

・支援を行う人の専門性を高めるため、施設や事業所職員のソフト面（制度や資源等の情報）でのスキルアップの研修に市で取り組んで欲しい。

## 委員からの感想、気になる点について

- ・障がい者の雇用、求人については、賃金だけでなく事業所や会社の設備面等を考慮に入れて検討する必要がある。今年、富良野市は過去最高の求人倍率であり、雇う会社側も働ける人材を求めており、障がいのある方と会社を結びつけていければ雇用が生まれる可能性は強いと思う。個々の障がいに関する情報を事業者側に直接聞いてみないと難しい。障がい者だけでなく雇用主も含む富良野市に住む市民皆が障がいの情報を共有する事で障がいに対する理解や意識が進むのではないかと考えている。
- ・新聞広告の折り込みで入れれば全世帯に届くのでは、あるいは経費がかかるのであれば、広報で何回かに分けて福祉的な情報を載せれば、障がいを持っていない方も知る機会になり、広がっていくのではないだろうか。
- ・市内指定相談支援事業所の職員のスキルを向上する事で障がいの相談に対応したり、パンフレットをそこで配布できる様にするとか、そこに行けば具体的、専門的な事を教えてもらえるとか、ワンストップの窓口をお知らせする事で何処に行けば良いのかが分かる様になるのではないだろうか。
- ・放課後児童デイサービスの利用者は年々増えている。
- ・上川支庁管内における障がい者計画の会議において、難病患者や精神障がい者の手帳所持者及び福祉サービス利用者等の手帳のない対象者に拡大してアンケート調査を行っているのは富良野市のみだった。また、色々な機関のサービスを統合して計画を策定するのは、ハンドブックを作る事とかにつながるので良い取り組みだと思ふ。
- ・医療の患者が誰に相談して良いのか分からない中で不要に悩ませている現状があるため、何処に行ってもメインとなる相談窓口につないでもらえる体制があれば良いと思う。なかなか相談に来れない方や敷居が高いと感じてしまう方にアウトリーチがあったり、身近な方が声かけあえる状況が必要ではないだろうか。また、障がいの理解につながる教育や相互理解の啓発を長い時間をかけて行っていかなければこの計画で実現できない事も多いと考えている。障がいに対する生涯教育を行う事で、障がいがあってもなくても住みやすい富良野になっていくのではないだろうか。
- ・広報では、障がいに関わらないとなかなか一般の方に伝わらないのでは。また、敷居が高くて市役所に行けない人もいる、自分が障がい者だと思っていない人もいて、地域の障がいのある方にどう関わっていけば良いのだろうと考えている。
- ・長く働いていた障がいのある方が、職場の関わる人の理解がなくて仕事を辞めざるをえなかった。本人はその職場が良いと思っていたのだけど、使ってくれる方の協力や関わり方が大事だと思う。
- ・引きこもりの方の就労支援を行った事があるが、少し手が遅いとかがあり、他の人と同じ様には働けないと言う現実がある。周囲の人達に遅いと言われてプレッシャーになり通う事ができなくなってしまい、事業者の皆さんの理解がなければ、なかなか就労に結びつける事は難しいと経験している。
- ・皆さんの意見を聞いていると、色々な事で知らない事が多くあると思う。障がいのない人もある程度の知識を持ち、町内会で話している時等に誰かが教えてあげら

れるような雰囲気を作っていき事が大事だと思う。

- ・長い将来的な事だと、例えば、高校生の出前講座等で障がいについて知る事を行えば、大人になった時に一つのツールになるのではと思う。建物とか道路とかのバリアフリー化よりも気持ちの中でのバリアフリー化を作る事が大事なのかと思う。お金がかかるから無理とかではなく、どんな形でも良いから何か少しずつでもやっていけば良いのかなと思う。

- ・今回は障がい者に対するアンケートを行っているが、健常者に対するアンケートを行えば、逆に障がいについて知っているのかが分かる事もあるのではと思う。

- ・股関節の手術をする方の手続きに係わったのだけど、身体障害者手帳の記載と逆の股関節の手術のため、申請にどう動いて良いのか分からなかった。

- ・今後、もっと大きな災害があるかもしれない中で、障がいを持った方の避難時の支援について、目が見えない、耳が聞こえない方にどう知らせていくのか、どう誘導するのか、精神障がいの方が避難所で集団生活ができるのだろうか、難病の方だと避難所での食事が食べられない方もいる、子どもであればアレルギーがあるとか、そこを抽出していこうという動きがある。要援護者の入る避難所も必要だし、一般の避難所でも色々な方がそこにくる事を前提とした避難所の運営を災害はいつ来るのか分からないため、早めに意識して考えていかなければならないと思う。保健所においても必要だと思っている。障がいを持つ方が被害に遭いやすいかもしれないと考えている。

- ・地域防災計画の中に障がい者や要支援者をきちんと含む様にしていかなければならないのではないか。民生委員が作成している「支え合いマップ」の中で独居老人や障がい者を含むデジタルの地図を作っている。避難時は連合町内会等の地域住民の協力がなければ、市の職員だけで回りきれ物ではない。

- ・消防署にはこのマップを利用した情報共有をしていないため、火災時の避難については使う事ができない。個人情報保護法があるために人命がおろそかになるのはどうかと思う。必要な情報提供がなくて、町内会の組織もなくなっていく中で、障がい者を含む社会的な弱者を守るシステムを再構築していかなければならないのではないかと思う。

(2) 富良野市障がい者計画アンケート調査結果について (多田係長)

**提案、意見等なし**

(3) 今後のスケジュール等について説明 (西尾課長)

**その他**

- ・リングファイルの配布について
- ・第4回委員会は、10月中旬の開催日程を予定

**閉会**